

絵描き井上ヤスミチの

ムダなものかすきでして... ①

休園・休校期間にダンボールでお城づくり

文章でははじめまして。2016年の秋からごみと・SUNの表紙イラストを描かせていただいている井上ヤスミチです。41歳、東京豊島区在住、助産師の妻と中学生・小学生・保育園児の3人の子どもたちと5人で暮らしています。イラストレーターとしてこの表紙イラストのように用途のあるイラストを描く仕事のほかに、画家として自分自身の作品を制作販売したり、土日はイベントで子どもたちの顔に絵を描くフェイスペイントをしたり、子どもたち対象のワークショップの講師をしたりしています。

ごみと・SUNの中にエッセイのようなものを書いてみないかとお誘いをいただきまして、初めて絵筆じゃない文章の筆をとることにまりました。よろしくお祈りします。

ごみの情報誌なので、なにかごみに関係した話をと考えるのですが、僕自身は特別ごみの削減を意識した暮らしをしているわけではありません。それどころか、僕が作っている絵画作品も、子どもたちと作っている工作も、宝石のようなわかりやすい高い価値があるわけではなく、衣食住のような生活必需品でもなく、他人からすればムダに見えるもの。いわばごみを増やすことを仕事にしていると言えなくもない。

今回は、退屈な自粛期間中に我が家の子どもたちと作ったダンボールのお城を紹介しながら、ごみになるようなものを作ることの価値について考えてみようと思います。

3月に始まったコロナの自粛、まずは小中学校がいきなりお休みになり、4月と5月には保育園も基本的に子どもを預けられない形になりました。3月末に五輪の中止が発表されて僕自身のイベント仕事もことごとく中止が決まっていき、ああこの自粛は暫く続きそうだなということがわかってきた頃、家にいる子どもたちと、なにか継続的に改造を続けられるような工作ができたらいいなと思い、ディズニーのプリンセスに夢中な5歳の末っ子のためにお城を作ることを長男と次男に提案し、作ってみたのがこちらの写真のもの。

お米が入っていた白い大きなダンボールが家にあったので、母屋にはそれを利用。屋根の上に高さの違う塔をランダムに立てて、水色のガムテープで貼り合わせ、塔の三角錐の屋根も水色の画用紙で制作。とりあえず白と水色をメインに使って母屋に塔がたくさん立っていれば、有名なお姫様のお城に見えます。

入り口のドアはアーチ型に開けよう。窓はここここにはほしい。キラキラしたホイルおりがみを貼ってみる？ ドアに取っ手がなくてあけにくいからトイレットペーパーの芯で作るね。一日で完成を目指すのではなく継続的に取り組むことで、お城は使いながら改良されていきました。

自分が入ることに飽きてきたら画用紙で城の住人や怖いワニを作って遊べるようにしてみたり、ドレスを作ってそれを飾るためのクローゼットを城内に作ったり、王子様とお姫様の塗り絵を切って外壁に貼ったり、中に明かりが欲しいとLEDのライト(熱を持たない小さな物)を設置したり。

そのうち、塔の上からビー玉を転がして遊べるダンボールのレールが城の周囲や内部に張り巡らされ、画面のサイズにくり抜いた窓にタブレット端末を設置することで映画館のようになったりと、お城に新たな役目も追加されました。今はもう、パッと見ただけではお城に見えないような外観に変わっています。

築城から3ヶ月が経ち、お城の使用頻度は減っていて、最後にもうひと遊びしようと、先日お城の壁に小さな穴をたくさんあけて、クリスマスイルミネーションのLEDを穴の一つずつ挿してプラネタリウムのようにし

て楽しみました。家族5人が暮らす狭小住宅で、幅80cm高さ150cmのお城は貴重な生活スペースを奪ってしまっているので、そろそろ解体して分別(ほぼ紙です)してごみに出そうと思っているところです。

作ったものはそのうちごみになりますが、子どもたちはいろいろな作業工程を楽しめたり、作った城で遊べたり、思いついた改良のアイデアを実際に形にするという経験もできて良かったと思います。新たなものを作るにはスペースの確保も必要で、壊さないと新しいものは作れない! 「今度はなにを作ろう」という声が子どもたち側から自然と出てくるようになるといいな。

井上ヤスミチ <http://yasmichi.com>
「ヤスミチ」で検索すると出てきます

